

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
Ⅰ 教育理念・教育目的	1. 法的整合性と独自性 1) 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。		○			学生便覧に明示している。(育てたい学生像、看護実践力を支える4つの力の明文化)	学生便覧		○			理念や教育目標はどこに示してあるのか。学生便覧以外に講義要綱にはないのか。  理念や育てたい力に関して学生が文献学習するような機会はあるか。  ・社会人基礎力の育成は必要である。社会人としてのマナー低下や仲間意識の希薄さも将来のチーム力に影響がある。学校の考える社会人基礎力とは何か。  ・育てる側の社会人基礎力も問われる。看護協会でも研修を取り入れていく。
	2) 教育理念・教育目的は法との整合性がある。		○			指定規則と整合している。 新カリキュラムの申請時の文書が残っている。 便覧に建学精神がのっている。	学生便覧 申請書		○			
	2. 教育理念・教育目的の意義と周知 1) 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		○			学生便覧に明示し、ガイダンスで説明している。27年度教育課程検討会で、教育理念・教育目標と年次別学習目標とカリキュラムの関連性について検討した。27年度教育課程検討会報告書として28年度にまとめていく。	学生便覧 検討会報告書		○			
	2) 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		○			教育目標は学生便覧に示しているが、その内容が学生がわかりやすいものにするために検討した。看護実践力を支える四つの力と、年次別学習目標を便覧に明示した。	学生便覧	教育目標が意味する内容が、学生にはややわかりにくい部分があるので、学生がわかる表現にしたものを28年度に便覧に載せていく。	○			
	3. 看護専門職についての考え方 1) 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。		○			当校の教育標語や看護実践力についての考え方を理念の中で述べている。看護実践力についての詳細を追加し学生に提示している。主要概念についても、学生便覧に明確に示している。	学生便覧		○			
	2) 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するためにどのような教育方法をとるのかを述べている。		○			教育理念・教育目的の中には具体的な教育方法については述べていないが、学生便覧やシラバス、実習要項などに示している。	学生便覧 講義要綱 実習要項		○			
	3) 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。		○			沿革・特徴に教育環境については述べている。	学生便覧		○			
	4. 看護教育についての考え方 1) 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。		○			教育理念のなかに、育てたい学生像を述べている。看護実践力として必要な力、主要概念の定義も述べている。教育課程検討会の中で、学生観の再確認を行い、教育目的を意識した学習活動の検討を行っている 年次別教育目標を学生便覧に明示した。 27年度教育課程検討会で、教育理念・教育目標と年次別学習目標とカリキュラムの関連性について検討した。27年度教育課程検討会報告書として28年度にまとめていく。 看護実践力は教育目的・目標の中に表現はされていないが、看護実践力を支える四つの力と、年次別学習目標を便覧に明示した。	学生便覧	教育目標と、4つの力とのつながりがわかりにくい部分があるので、学生がわかる表現にしたものを28年度に学生便覧に載せていく。	○			
	2) 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。		○				教育課程検討会報告書		○			
	5. 学習、教育観と学生観 1) 教育理念・教育目的は、養成する看護師が卒業時点において持つべき資質を明示している。		○				学生便覧		○			
	2) 卒業時に持つべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。		○				学生便覧 教育課程検討会報告書		○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
Ⅱ 教育目標	1. 教育目標は教育理念・教育目的と一貫性がある。		○			新カリキュラムに移行する時に見直し、26年度にも検討会で 見直している。教育課程検討会報告書として残している。	教育課程検討会報 告書		○			評価通りでよい。
	2. 目標内容の側面と到達レベルの側面 1)教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		○			新カリキュラムに移行する際に教育目的・教育目標と合わせ た科目建ての検討を行い、教育課程検討会報告書に残して いる。27年度は教科課程・教科外活動と教育目標とのマトリッ クスを作成し、現状を把握した。その過程で、教科外活動に おいて年次別学習目標を置いた。それによって教育課程の つながりを再確認できた。28年度に学生便覧に示していく。	教育課程検討会報 告書		○			
	2)教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		○			第三者評価で指摘された成長保障も含めて教育目標の内容 を明確化し、27年度に学生便覧に明示した。	学生便覧 教育課程検討会報 告書		○			
	3. 設定意図とその明確性、実現可能性 1)教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		○			平成26年度に教育目標の検討を行い、それが到達レベルに 対応していることを確認した。	教育課程検討会報 告書		○			
	2)教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。		○			一般の人々や学生がわかりやすいように検討内容を学生便 覧に載せた。学生便覧はHP上でも閲覧できるようにした。	教育課程検討会報 告書 学生便覧 HP		○			
	4. 教育目標の評価 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。		○			平成26年度の教育課程検討会で教育理念・目標の再確認を した。27年度はそこからつながる年次目標を教育課程検討会 で再検討した。28年度に報告書としてまとめる。教育目的・目 標を意識して教授内容や評価に活かし、教育課程を評価した ものを年報としてまとめている。	教育課程検討会報 告書 学生便覧 年報	28年は自己点検・自己評価の項目 と年報の項目が統一されるようにし ていく必要がある。	○			
	5. 継続教育との関連 卒業後の継続教育の考え方を示したうえで、教育目標を設定している。		○			知識・技術・態度の到達度を年次目標の中で反映させてい る。 到達度に基づいた看護技術経験録を学生自身で管理し チェックしている。	学生便覧 看護技術経験録		○			
Ⅲ 教育課程経営	1.教育課程経営者の活動 1)教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。		○			講師会議、実習指導者会議に加え、28年度から教育課程編 成委員会が開催できるように組織化した。マトリックスについ ては、教育課程検討会で検討し、28年度に報告書としてまと める。	講義要綱、教育課 程検討会報告書、 実習要項、講師会 議・実習指導者会 議議事録		○			
	2)教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。		○			行っているがさらに見直しをしている。			○			
	2. 教育課程編成の考え方とその具体的な構成 1)看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		○			指定規則だけでなく、自校の育てたい学生像を明確にし、そ こを基に教育課程の検討をしている。 (教育課程検討会報告書に残している)	教育課程検討会報 告書		○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
	2)学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		○			育てたい学生像が明確になっている。教育の方向性を示している。	教育課程検討会報告書 学生便覧		○			
	3)学生の成長について明確な考えと根拠をもって教育課程を編成している。											
	3. 科目、単元構成 1)明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。		○			新カリキュラムの検討時に、分野・科目・単元構成の考え方と根拠を示しており、教育課程検討会報告書に残している。その考え方を学生便覧に示している。	教育課程検討会報告書 学生便覧		○			
	2)明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。											
	3)科目と単元の構成の考え方は、教育理念・目的、教育目標と整合性がある。		○			新カリキュラム移行時の検討をしている。第三者評価で指摘された整合性は、27年度に教育目標・年次目標と科目内容との整合性について、教育課程検討会で検討し明らかにしている。	教育課程検討会報告書 学生便覧		○			
	4)構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。		○			指定規則を遵守し構成している。さらには自校の考え方も取り入れ十分検討されている。	申請書		○			
	5)構成した科目は養成所の特徴を表している。		○			人間育成に力を入れた科目構成にしている。	教育課程検討会報告書		○			
	4. 教育計画 1)単位履修の方法とその制約について、教師・学生の双方がわかるように明示している。		○			学生便覧、講義要項により示している。ガイダンスも行っている。	学生便覧 講義要項 実習要項		○			
	2)単位履修の方法は、学生の単位履修を支援するものとなっている。		○			卒業、単位認定の規定は学則・細則に示されている。追試・再試・補修実習についても示している。単位認定会議、卒業認定会議を実施し会議録も残している。	学生便覧 講義要綱・実習要項 単位認定・卒業認定会議会議録		○			
	3)単位履修の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように科目の配列をしている。		○			新カリキュラム移行時に十分検討し、報告書に残している。基礎から実践力の統合発展に向かっていけるよう配列をしている。	教育課程検討会報告書 学生便覧		○			
	5. 教育課程の評価の体系 1)単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。		○			学則第5章に規定されている。年次別に単位認定会議を行っている。	学生便覧		○			
	2)単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。											

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
	3) 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えておる。		○			学則第5章に記載されている。	学生便覧		○			
	4) 教育課程を評価する体系を整えている。		○			学生による授業評価、保護者の意見、学校評価委員会、講師会議、実習指導者会議を行っている。加えて職業実践専門課程の認定を受ける為、平成28年度には教育課程編成委員会を組織化していけるよう学校の自己点検・自己評価の実施、および第三者評価を実施し、その結果をHPで公表した。	授業評価マニュアル、結果表、コメント表 保護者の返信用紙 学校評価委員会・講師会議・実習指導者会議会議録 HP		○			
	5) 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。			○		学生の評価の利用については、本人の申請があれば就職・進学の場合は提出することを説明している。倫理規定については不備である。	組合立静岡県中部看護専門学校における個人情報の利用について	倫理規定については28年度運営会議で検討していく。		○		
	6. 教員の教育・研究活動の充実 1) 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。		○			基本的には専門領域を決め担当している。授業時間数が多い科目に関しては、他の領域の教員の経験を配慮し時間数を配分している。 新任教員は準備などに時間を要することを考慮し時間数を減らしている。時間数には偏りがないよう適切に配分している。	教育事業実施計画		○			〔課題〕 ・教員が日々新しい知識や教育法略を得る手段を整えたほうがよい。 ・医中誌の1台分の検索契約があればよいと思う。  ・榛原総合病院では医中誌の検索使用してよい。文献取り寄せも無料である。
	2) 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。			○		専門領域の教員を2名にしている。実習担当がない時は、学内で授業準備をする時間も確保している。しかし、学内では学生指導などが優先されることも多い。 実習指導中は時間内では授業準備の時間の確保は難しい。実習指導者会などで、協力を要請している。体制としては十分とは言えない。	時間割 教員の实習予定一覧表 教員の行動予定表 時間外使用時間表	28年度は教務課としての目標を明示し、実習と役割のバランスなども考えて整えていく、また講義と実習のバランスを考えた時間割調整をしていく。		○		
	3) 教育課程の実践者である教員が、自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。		○			年に1回は公費で学会に参加できるよう計画的に予算をとっている。専門領域交代が予定されている場合には、病院研修や外部の長期研修などを計画し予算立てしている。 それらについては復命書があり、それ以外の自己研修の報告は年報に残している。	研修復命書 研修報告一覧(年報)		○			
	4) 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。			○		新任教員の模擬授業や学生指導検討会、他校開催の研修会参加は継続して行っている。しかし、計画的には公開授業や授業研究を行っていない。実際には 校内実習やプロジェクト学習に参加することがある。第三者評価で指摘された実務研修は28年度の実施を計画している。	新任教員模擬授業の意見内容を記載したもの 学生指導検討会議事録	28年度は他の授業に参加するときには、研鑽する意識を持って入るようシステムを整えていく。 担当責任者の実務研修を実施する。		○		
	7. 学生の看護実践体験の保障 1) 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。		○			27年度は28年度に向けて実習指導者会で報告するための計画を立てた。28年度から実施する。	教育課程検討会報告書	28年の実習指導者会議で配布していく。	○			
	2) 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援するため体制を整えている。		○			各施設、必ず実習指導者が学生の実習を支援している。施設側は計画的に指導者研修を受講できるようにしている。	実習指導者履歴書		○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞											A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価											第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見	
	中項目		A	B	C				A	B	C		
	3) 臨地実習指導における学生の学びを保障するため に、臨地実習指導者の役割を明確にしている。		○			それぞれの役割を「実習施設との申し合わせ事項」に明示し ている。27年度は実習指導者会議で教育理念・目的・目標・ 年次別学習目標・実習指導者の役割などを毎年伝えていくよ うに計画を立てた。	実習施設との申し 合わせ事項用紙	28年度実習指導者会から実施す る。	○				
	4) 臨地実習指導における学生の学びを保障するため に、教員の役割を明確にしている。												
	5) 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。		○			協力し合いながら指導を行っている。各実習においては実習 指導要綱を作成している。実習指導者会議の分科会では具 体的な実習計画や指導要項を示し共通理解している。基礎 実習・看護過程実習・統合実習に関しては実習指導者連絡 会議等で説明し、指導案・指導計画を共有している。個々の 学生の課題・目標については面接などをして共通理解のもと で指導に当たっている。 指導者が学生のレディネスを把握できるように、指導者に学 内実習の予定を知らせ参加できるようにしている。	実習指導要綱 実習指導者会議議 事録 実習指導者連絡会 議議事録 実習指導案・指導 計画 学生の課題・目標 用紙	○					
	6) 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するた めの考え方を明示している。		○			実習ガイダンスの中で説明している。27年度には28年度実習 要項に入れることは出来なかった。29年度からは実習要項に 項目を追加する。	実習要項	「看護学生として主体的な学習姿勢 をもつ」という実習目標の学習活動 に、「患者の権利を尊重する」という 内容も検討していく(28年度)。29年 度の実習要項には追加する。	○				
	7) 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生 への指導を計画的に行っている。		○			施設によっては患者との同意書を交わしている。そのことは 実習オリエンテーション時と実習開始日に説明している。	時間割 実習要項		○				
	8) 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分 析している。		○			学生指導報告会での検討を継続している。27年度の事故報 告書の分析内容を27年度年報で報告する。	事故報告書 学生指導検討会議 事録		○				
	9) 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っ ている。		○			実習全体ガイダンスで実習要項に記載している「医療過誤の 防止」に基づき伝えるときともに、各領域のオリエンテーションで は具体的に伝えている。	実習要項 オリエンテーション 指導案		○				
Ⅳ 教授・学 習・評 価過 程	1. 授業内容と教育課程との一貫性・看護学としての 妥当性・授業内容間の関連と発展 1) 授業の内容は教育過程との関係において、当該学 生のための授業内容として設定されている。		○			教育課程検討会で年次目標と科目内容の整合性について検 討した。報告書で報告する。	教育課程検討会報 告書 授業計画		○			評価通りでよい	
	2) 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。		○			新カリキュラム移行時の検討を教育課程検討会報告書として 残している。また、シラバスにも明示している。 病態生理演習は、学習した病態生理の知識を看護実践に活 用するための演習であるため、看護教員が実施している。	申請書 教育課程検討会報 告書 講義要綱		○				
	3) 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合 性をもっている。												
	4) 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥 当性がある。												

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
	5) 授業内容間の重複や整合性、発展性などが明確になっている。		○			シラバスに明示している。	講義要綱		○			
	2.授業の展開過程 1) 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。		○			適した授業形態を選択し、講義要綱・実習要項に明示している。	講義要綱 実習要項		○			
	2) 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画などに明示し、実践している。		○			講義要綱・実習要項、それぞれの科目・単元の授業計画・指導案に明示している。 校内実習は、少人数制として時間割を組み、複数の教員で指導にあたっている。	講義要綱 実習要項 授業の指導案、授業計画 時間割 基礎看護学グループ編成表		○			
	3) 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		○			TBL、グループ学習などさまざまな教育方法を取り入れることで、学生の学習が自ら深化・発展する支援をしている。	講義要綱 授業の指導案		○			
	4) 学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		○			校内実習や演習、総合看護実践などは他の教員の協力を得て丁寧な指導を行っている。	講義要綱 授業の指導案		○			
	3. 目標達成の評価とフィードバック 1) 評価計画を立案し、実施している。			○		授業の評価計画を立案し、28年度の講義要綱に載せる準備をした。28年度講義要綱に明示する。 一部の授業、演習や実習ではルーブリックを作成している。 28年度は全ての実習でルーブリック評価していくように準備していく。	授業の指導案 ルーブリック			○		
	2) 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。		○			所感などの形成的評価に基づいて、授業を改善している。単元終了時の学生による授業評価を基に、次年度の授業の改善に向け検討している。	授業の指導案 所感用紙 授業評価表		○			
	3) 学生及び教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。		○			学生による授業評価を実施している。その結果をコメントと共に開示している。実習に対する授業評価は、次に活かすようにしている。27年度は26年度の自己点検・自己評価をもとに第三者評価を実施した。28年度は多面的評価の方法、内容と目的・活用などを明確にしていく。	試験結果 講義要綱 各授業の指導案		○			
	4) 教育目標の達成状況を多面的に把握している。			○		27年度の年報の項目は自己点検・自己評価を意識した項目にすることで、多面的に評価した。28年度の年報は自己点検自己評価とリンクさせていく。		28年度は教育活動を多面的に評価するためのシステム化が課題である。		○		
	5) 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。		○			科目の単位認定についてはシラバスで示している。実習に関しては実習要項に示している。また、具体的な基準をルーブリックで示しているものもある。	学生便覧 講義要綱 実習要項		○			
	6) 単位認定の評価には公平性が保たれている。		○			単位認定は、科目の評価を基に校長・副校長・庶務課長・庶務係長・教育係長・実習調整による単位認定会議で検討される。その経過および結果は、書面で保存している。	会議録 学生便覧		○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
	4. 学習への動機づけと支援 1)シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		○			シラバスは統一した書式で科目のねらい、内容、テキスト、評価等を示している。また、教育課程全体の構成や進度も示している。	講義要綱		○			
	2)シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		○			年度初めに授業と実習のガイダンスを行い、実習要項を提示している。それぞれの科目・単元でも具体的に講義概要を示している。各実習では実習ごとに詳細な実習オリエンテーションを行っている。また、図書室や情報処理室は適切な管理の下に開放しており、自主学習ができる環境を整えている。また、学生の希望があれば19時までは校舎使用ができるようにしている。	講義要綱 授業計画 実習要項 校舎使用簿		○			
V ・ 経営・ 管理過程	1. 設置者の意思・指針 1)養成所の管理者(校長・副校長)は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。		○			教育理念・教育目的については本校の成り立ちとともに、学生便覧や募集要項などに明示している。	学生便覧 募集要項		○			評価通りでよい。
	2)養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。		○			教育課程経営については学生便覧や教育事業実施計画などで明示している。	学生便覧 教育事業実施計画		○			
	3)養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。			○		設置者へ国家試験合格率、関連3病院への就職率、教育事業報告をしている。教育評価についての考え方は明示していない。しかし、27年度は自己点検自己評価の第三者評価を行うとともに、28年度からの学校関係者評価委員会組織化の準備を行った。	管理者会議録 HP(自己点検自己評価結果・第三者評価)	28年度からは教育評価としての位置づけを明確にしたうえで、学校関係者評価委員会をを実施していく。		○		
	4)養成所の管理者は養成所の管理運営などについての考え方を明示している。		○			教育事業実施方針及び計画について年度当初運営会議で承認されている。	教育事業実施方針 及び計画 教育事業実施計画 運営会議会議録		○			
	5)明示した管理者の考えと、設置者との意思とは一貫性がある。			○		設置者の出席する毎月の「管理者会議」が開催され、協議すべき事項があれば協議し意思統一を図っている。	管理者会議に関する内規(仮)	志太広域事務組合の懸案事項は幅広く存在し看護学校に係る事項については協議の対象となる事が少ない。また管理職でも現場と組合事務局とは場所も離れており意思疎通を図ることに苦慮している。		○		
	6)教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。		○			教職員による運営会議・教員会議が定期的に開かれ意思疎通を図っている。	会議録		○			
	2. 組織体制 1)養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。		○			教育事業実施計画・志太広域事務組合処務規程により組織体制や事務分掌が定められている。	教育事業実施計画 志太広域事務組合 処務規程		○			
	2)意思決定システムが明確になっている。		○			管理者会議・運営会議・教員会議が定期的に開催され意思決定システムが明確となっている。運営会議には校長・副校長・課長・主幹・実習調整・カリキュラム補佐が出席し学校における主要な課題について意思決定している。意思決定した事項は教員会議の場で教員全員に伝達されている。会議は	会議録	28年は会議の関連性と目的を明示した組織図を作成していくことで、連動した意思決定システムを明確にしていきたい。	○			
3)意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。		○				○						





静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
	5) 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。											
Ⅵ 入学	1. 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。		○			入試委員会、高校訪問・学校説明会、体験入学は継続して開催し、それらの意見を参考に募集要項の改善を行っている。教育理念・教育目的は募集要綱に明示していない。第三者評価を参考にして、平成29年度募集要綱から入学試験の出願資格の「疾患・異常がないもの」を削除した。	入試委員会資料、 結果資料 高校訪問計画書復 命書 1日体験入学報告 HP、募集要綱		○			
	2. 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。		○				入学者状況一覧資 料 入試委員会内容書		○			
Ⅶ 卒業・ 就業・ 進学	1. 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。		○			卒業時の到達状況については学生便覧の履修の手引きに明示されている。	学生便覧		○			〔課題〕 2. 病院として到達状況を早く公表してほしい。実習中から連絡がタイムリーにできていくと良い。就職後の病棟と学生の適正のミスマッチが予防できると思う。
	2. 卒業時の到達状況を分析している。		○			副校長による卒業前アンケートや面接を実施している。主担当による総括で分析している。卒業時の到達状況を、卒業時面接で確認しているが、結果の分析と公表にまでは至っていない。また、経験録の分析までは至っていない。	年報	28年度には、到達度をはかる項目について検討していく。	○			
	3. 卒業生の就業・進学状況を分析している。		○			本校の設立方針として圏域病院への就職を目的としているため、当該病院への就職者の人数や傾向を特に注視している。	卒業生の就業・進 学 離職状況の資料		○			
	4. 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。		○			圏域病院への就職率がかかなり高いことから整合性があると判断される。国試の合格率も全国平均を上回っている。			○			
	5. 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。		○			就職先との連携が密であり、卒業生の状況を把握できている。			○			
	6. 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施などができる体制を整えている。		○			就職先との連携が密であり、卒業後の離職状況など調査している。	圏域病院の看護師 等推移調査資料		○			
	7. 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。		○			同窓会役員と連携して、卒業生の活動状況の情報提供を受けていく。	圏域病院の看護師 等推移調査資料指 導者会議会議録 学校評価委員会会 議録	今後更に同窓会等活用する方法を検討。	○			
	8. 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。		○			講師会議、評価委員会、実習指導者会議での意見を参考にしている。卒業生の状況や意見も参考に理念に基づき教育目的・目標の見直しをしている。 圏域病院に卒業生が占める割合が高いことは、本校の教育目的に沿った展開となっていることを証明している。	講師会議会議録 教育課程検討会報 告書		○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞											A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。			
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見	
	中項目		A	B	C				A	B	C		
Ⅷ 地域社会／国際交流	1. 地域社会 1) 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。		○			地域の看護師不足解消のため設立され、地域病院へ人材を輩出している。学校関係者評価委員会に、地域社会を代表する構成委員を準備した。地域の希望もあり、災害時の津波避難タワーとして協力している。地域の要請を受けて出前講座や進路相談を行っている。学校祭では学生による健康相談も行なっている。今後も継続していく。	評価委員会議事録 依頼文書 出前講座等報告書 講習会などのカリキュラムの教育計画		○				
	2) 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にやっている。												
	3) 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている。												
	4) 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。		○			学校祭の開催、市町の広報を利用するとともに、HPも作っている。市町の要請に応え、学生のボランティア活動や出前講座なども行っている。看護協会の行事に参加している。看護系志望の学生に対して学校説明会を実施している。	市町の広報 ボランティア活動、 出前講座等報告書	○					
	5) 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。		○			看護学校設立の主旨に示している。	HP	○					
	6) 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		○			地域の病院や施設を実習で使用している。特別講義を地域の方々にお願いしている。学校祭には、地域の実習施設、警察なども参加し協力している。	時間割 講義資料 講師名簿	○					
	2. 国際交流 1) 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。		○			公立であり、地域における保健・医療・福祉に貢献する人材育成を設立の目的としている。しかし、国際的視点を養うため国際看護を授業科目に設定している。情報処理室、図書室、ロビー、ラウンジでのインターネット環境、WiFi環境も整えているが、学生が自由に使わせることに関しては検討中である。帰国学生や留学生に対して特別に配慮した体制は整えていないが、門戸は開いている。英訳の卒業証明書の作成など希望者に対応している。27年度は、そのようなニーズはなかった。	講義要項		○			2.2)の評価は過小評価ではないか。施設として整えていることは評価できる。	
	2) 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。				○					○			
	3) 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。				○					○			
	4) 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。				○					○			

静岡県中部看護専門学校学校 自己点検・自己評価および第三者評価 ＜平成27年度＞										A…よく当てはまる B…大体当てはまる C…当てはまらない		
自校の評価										第三者評価 平成27年度の自己点検・自己評価の第 三者評価は平成28年6月に学校関係者 評価委員会において実施した。		
大項目	評価項目(質問項目)		評価(自校)			評価内容	資料	今後の課題	評価(第三者)			評価と意見
	中項目		A	B	C				A	B	C	
Ⅸ 研究	1. 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。				○	27年度は2題の研究発表を行った。研究活動を行いたいが、時間の確保や文献検索の環境が整っていない部分がある。その中でも全体で教育課程検討会を継続している点は、体制的に整えるように努力している部分である。今後は実践報告ができるような環境を整えていく。					○	評価通りでよい
	2. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。				○						○	
	3. 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。			○			教育課程検討会報告書 紀要	今後はは実践報告ができるような環境を整えていく。		○		

平成27年度 自己点検自己評価の第三者評価を実施した。  
評価を変えるところはなく、おおむね評価どおりでよい。  
意見を参考に次年度に課題追加していく。

学校関係者評価委員 委員一同承認

学校関係者評価委員会  
平成28年6月14日 本校合同講義室  
委員長 望月章子 (一般社団法人日本看護学校協議会理事)  
委員 齊藤伸子 (公益社団法人静岡県看護協会常務理事)  
委員 古井知恵子 (焼津市立総合病院 看護副部長)  
委員 達家好美 (藤枝市立総合病院 看護副部長)  
委員 八木久美子 (榛原総合病院 教育担当師長)  
委員 山下陽子 (静岡県中部看護専門学校 同窓会 副会長)

事務局  
金子秀子 (副校長)  
佐藤滋房 (庶務課長)  
伊藤みどり (教務課主幹兼教育係長)  
亀澤ますみ (主任主査 実習調整者)